国語科学習指導案

泉南市立鳴滝小学校

Ｔ１　担任教諭

Ｔ２　栄養教諭

1. 日　　　時　　令和元年12月13日（金）　第6限（14時40分～15時25分）
2. 学　　　年　　第5学年
3. 単　元　名　「季節の言葉3　秋の夕暮れ」（光村図書　5年）
4. 学習の系統

　「季節の言葉」では学年ごとにテーマを設け、学年の発達段階に応じて日々の生活と四季について学ぶように系統づけられている。各学年のテーマは下記のとおりで、それぞれの学年に春夏秋冬の単元がある。

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 |
| 身近な動植物 | 行事 | 風景 | 気象 | 二十四節気 |

1. 単元目標

・古文について、内容の大体を知るとともに、語感や言葉の使い方に関心をもつことができる。

・昔の人のものの見方や感じ方を参考に、自分が感じたことを文章に書き表すことができる。

・書いたものの表現のしかたに着目して助言することができる。

1. 単元の評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 関心・意欲・態度 | 言語 | 書くこと |
| ・季節を表す言葉に興味を持っている。 | ・大体の意味や情景を思い浮かべている。  ・語感や言葉の使い方に関心を持っている。 | ・言葉が表す感覚や様子を理解しそれを使って文章を書いている。  ・書いた文章を読み合い、表現のしかたに着目して助言している。 |

1. 食育の視点

〇　食に関する指導の目標

・　季節にちなんだ食べものの歴史等を理解し、興味・関心を持つ。（食文化）

〇　食に関する指導の進め方

　　　・　米作りには受け継がれてきた大切なものがこめられていることを知らせる。

　　　・　食べ物で季節を感じることができることを知らせる。

1. 指導にあたって

【児童観】

※個人情報のため削除

【教材観】

　児童たちのくらしを見てみると、パソコンやスマートフォンなどからの情報が多くなってきている。そこから、擬似的・間接的な体験が増え、人やもの、自然に直接触れるという体験活動の機会が少なくなってきている。また、四季の移り変わりは日々のくらしの中で体感しているはずであるが、あえてそこに関心を持ったり、感じ取ったり、言葉にしてみたりするということがあまり見られない。そこで、自然や美しいものに感動する心を育てたいとの願いから、本教材を位置づけた。

本教材「季節の言葉」では、各学年の発達段階を考慮しながら季節に関わるものを選んでいる。日々のくらしと季節とつながりのあるテーマを設けて、第二学年から第六学年まで系統立て配置している。

（二年…身近な動植物、三年…行事、四年…風景、五年…気象・時候、六年…二十四節気）らせん的に学習を繰り返していくことで、先人たちのものの見方や感じ方、考え方を知り、季節を多面的に捉える楽しみ方に気付くことが期待できる。

五年生では、「枕草子」第一段を四季に分け、筆者が感じた季節感を味わうことができるようにしている。気象と時候に関わる言葉を季節の写真とともに取り上げている。四季の気象の変化に富んだ日本には、それに関わる豊かな言葉が、昔から現在に至るまで使われている。ここでは、児童が日常生活でふれる言葉以外にも語彙を広げたり、情景を思い浮かべたり、自らの周囲の変化を捉えたりする感性を養いたい。

【指導観】

これまで、五年生の「季節の言葉」の単元で、春夏と「枕草子」につづられているそれぞれの季節で感じられる様子や「美しい」「よい」と感じられることについて読み取ってきた。それをもとにして、本単元でも自分が感じる「季節らしさ」についても考え、交流していく。

「枕草子」からは、清少納言が良いと感じている部分を音読を通して感じられるようにしたい。

気象を表す言葉については、イメージがわくように写真を見せて思いをはせることで、季節感を味わうための工夫を進めたい。

　本教材では秋の気象や時候に関わる言葉を取り上げているが、児童にとってより身近な食べものからも季節感を味わわせたい。また児童にとって古典はなじみがないため、清少納言に扮することで、歴史的な背景を身近に感じ、意欲的に学習を進めていけるよう取り組む。

パズルや巻物を利用し、児童の活動を取り入れたり、視覚支援を行うことで、楽しみながら国語の学習を進めたい。

1. 学習指導計画（全2時間）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 時 | 学習内容・学習活動 | 主な評価規準 |
| 1（本時） | 1.秋らしいものや様子を探す。  2.枕草子の一節を読み、内容の大体を知る。  3.秋を代表する食べものである米のひみつを知る。  4.気象を表す言葉について知る。  5.本時の学習を振り返る。 | ・枕草子の大体の意味や情景を思い浮かべることができる。【知識・理解】  ・季節にちなんだ食べものの歴史等に興味をもつことができる。【関心・意欲・態度】 |
| 2 | 1.秋を表す言葉を振り返る。  2.自分が秋を感じる秋の良さを思い出す。  3.枕草子の文章の書き方にはめて文章を構成する。  4.作った文章を交流する。 | ・言葉が表す感覚や様子を理解し、それを使って文章を書くことができる。  【思考・判断・表現】 |

1. 本時の指導

（1）本時の目標

　・　「枕草子」の一節を音読して内容の大体を知り、清少納言の秋への見方や感じ方にふれ、秋を表す言葉や文章に興味をもって音読し、季節感を味わうこと。

　・　秋を代表する食べものである米について学習することで、日本の食文化を知ることができる。　　（食文化）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 学習活動 | 指導者の指導・支援（〇T1　●T2） | 評価◆（準備物） |
| 1.　前時までの学習を振り返り季節の移り変わりを思い出す。  2.　枕草子の一節を読み、内容の大体を知る。  ・音読をする。  ・清少納言が感じる秋の良さ  を見つける。  3.　秋を代表する食べ物である、米のひみつを考える。  ・米作りの手間を知る。  ・米と呼ばれる理由を知る。  4.　気象を表す言葉について知る。  ・天高く馬肥ゆる秋  ・秋の夜長  5.　学習した内容を振り返る | 〇　グループで話し合わせる。  〇　何人かに発表させる。  〇　めあてを確認し、板書する。  〇　音読を通して、清少納言が感じた季節の様子について考えさせる。  ●　清少納言となって登場し、平安時代の背景を想起させる。  ●　米分解図を配付し、何という漢字になるか考えさせる。  ●　米作りにはどれほどの手間がかかるのかを考えさせ、巻物を使って八十八の手間を見せる。  〇　気象と関連させる  ●　ワークシートに書かせる。  〇　ワークシートに書かせる。  〇　写真を使って説明する。  〇　本時の内容を振り返させる。  〇　ワークシートに書かせる。  〇　分かったこと、気付いたことを発表させる。 | 秋について書かれた文章や言葉から、秋のイメージを深めよう。  ◆　枕草子の内容を読み取り、書くことができているか。  （教科書）  ◆　米から秋のイメージを深めることができたか。  （清少納言の服装）  （米分解図）  （食育ワークシート）  （八十八の手間巻物）  （種もみ、芽出し写真）  （気象を表す写真）    ◆　秋のイメージを深めることができているか。 |

（2）展開

板書計画

　　季節の言葉

　秋らしさを感じるものや様子

　　運動会・遠足・夕焼け・日が短くなった・米

　秋について書かれた文章や言葉から秋のイメージを深めよう

　　　枕草子　　清少納言

　　　　　　秋は夕暮れ

　・烏が急いで飛んでいく様子

　・雁が列を作っているのが小さく見えること

　・風の音や虫の音

　米のひみつ

　　　八十八　→　米

　　米には受け継がれてきた大切なものが

こめられている

秋の気象

　　天高く馬肥ゆる秋　　　　秋の夜長

写真

写真

＊教材説明

　・米分解図は、「八十八」という文字が「米」になることを、児童一人一人が実感できるように自分たちで動かせるパネル形式にした。



　・「八十八の手間」の巻物は、長さにより手間の多さを実感させたい。手間の説明をする際、黒板に掲示することが難しいため、巻物を三分割できるよう作成した。

